

# WURC NEWS 特別号Vol.1

編集:河内 章(主務)

## For The Victory

入部ふた月で全日本選手権へ対校エイトの7番で出漕するという鮮烈な大学デビューを果たした上谷康晃。その圧倒的な力と技は部員誰もが認める所。同じく1年目から対校エイトを支え続けてきた田中大誠。7月に行われた U-23 世界選手権では欧米の強豪国を相手に日本史上初となる銀メダルを獲得した。高校時代から輝かしい戦績を残す二人が今一番求めているもの…それは「インカレ対校エイト優勝」。早稲田14年ぶりとなる王座奪還を果たすため、二人の担う役割は大きい。



## 互いの存在



高校時代、伴にアジアジュニア選手権大会の日本代表であったこともあり、特に仲が良い二人。お互いについて、*「一緒にいて当然の存在。そう思えるのが特別な間柄なのかもしれません。良いライバルです。」*と上谷。それに対し田中は*「前から絶対に負けたくないと思ってきた存在。」*と相手を認めているからこそこのコメント。阿吽の呼吸を体現する2人のコンビネーションを無くしては、対校エイト悲願のインカレ優勝は考えられない。

## 魂の継承

*「今シーズンの目標は先ず早慶戦の完全優勝。今年故障で出場できなかった分、改めて隅田川で漕げる凄さや試合のありがたみを感じた。ここで勝って勢いをつけ、対校エイトのインカレ優勝。そのために常に問題意識を持ってトレーニングしなければ日本大学に追いつき追い抜くことは出来ない(上谷)。」*田中は*「気持ちで負けたらそこで終わる。今までその部分が早稲田に足りなかった。部員全員でもっと勝ちに貪欲にいきたい。」*と加える。*「大学で思い出深いのは一昨年の全日本新人戦でのエイト優勝。忘れられない気持ち良さでした。勝たなければ味わえない感覚。この感覚を後輩に伝えるのも使命だと感じています。」*と二人。最後に*「僕たちにとってのラストイヤー。かっこよく勝ち逃げしてやります。」*と自信と希望に満ち溢れた眼で二人は語ってくれた。

【ただ勝つためだけでなく、ここから勝利を伝承していくため】

主将上谷・世界を知る男田中、二人の最後の戦いは始まっている。



田中 大誠 (たなか ひろみ)

スポーツ科学部 3年

### 主な戦歴

- ・アジア Jr 選手権 06'【2×】優勝
- ・全日本選手権 07'【4-】準優勝
- ・全日本新人選手権 07'【8+】優勝
- ・U-23 世界選手権 09'【4-】準優勝



上谷 康晃 (うえたに よしあき)

スポーツ科学部 3年

### 主な戦歴

- ・アジア Jr 選手権 06'【1×】優勝
- ・全日本大学選手権 07' ~09'【8+】3年連続3位
- ・全日本新人選手権 07'【8+】優勝